

22.11.6

子どもの「生活力」高め

ひもが結べない、ぞうきんが絞れない。日常生活での当たり前の営みに「苦戦」する子どもが増えているという。ボタン一つで家事が済む生活環境の変化や核家族化、子どもに家事を教える余裕のない親の事情…。今こそ子どもの「生活力」向上が求められている。

◆想定外◆

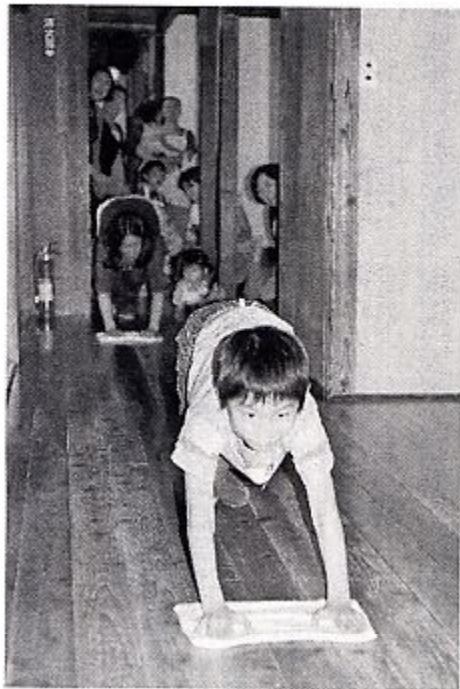
売れ行きをみていく。

今年3月、小学校から発売された小学校低学年向けの「せいかつかはしや包丁の使い方の図鑑」が、半年で発行部数15万部の異例の



ぞうきんの正しい絞り方などを解説する小学館の「せいかつかはしや包丁の図鑑」

当たり前の営み“苦戦” 環境変化、体験の場減少



「家事塾」でぞうきん掛けに励む児童=神奈川県茅ヶ崎市の旅館、茅ヶ崎館

ほうきの掃き方をはじめ、洗濯、入浴のほんを絞ると指先が鍛えられ筆力が向上して字が上手になるなど

とアドバイスを付記し、親子一緒に学べるのが特徴だ。

編集した同社生活編

集部の青山明子編集長

代理は「これだけ売れるとは想定外。あまり

に当たり前」ことが本

として売れることに驚く

ると、約15年前から子

日で掃除や食事の作

とアドバイスを付記し、親子と一緒に学べる方が分からぬ」「ボタンを掛けられない」

「鉢巻きが結べない」学校現場で実際に子どもが直面している現実の事例だ。

教員生活30年の東京都台東区立大正小学校

の東川久美子教諭によ

る、「家事塾」は、1泊2

日で掃除や食事の作

」といふ。

「掃除は高いところ

から始めて。ほうきは

疊の目に合わせ端から

順に。配膳は音を立て

ず、皿は重ねない」

神奈川県茅ヶ崎市の

「家事塾」は、1泊2

日で掃除や食事の作

」といふ。

「家事塾」でぞうきん掛けに励む児童=神奈川県茅ヶ崎市の旅館、茅ヶ崎館

（写真：茅ヶ崎市観光課）

（写真：茅ヶ崎市観光課）